

藤女子大学 図書館 だより



Fuji Women's
University
Library

新人生
歓迎号

No.99
2020.4

1. 江戸時代の本の話
… 日本語・日本文学科 山本 綏子
4. 『日本史リブレット』のご紹介
…… 文化総合学科 松本 あづさ
5. 高校生・中学生の職場体験
6. LiSt活動報告 第6回
6. 図書館スチューデント・ジョブ
-「LiSt」これまでの活動-
7. 図書館からのお知らせ
8. 図書館資料Navi 第15回
「育メン」現象の社会学
…… 人間生活学科 木脇 奈智子

CONTENTS



江戸時代の本の話

日本語・日本文学科 山本 綏子

現代では、本というと、洋綴じで製本された活字の本が一般的です。けれども、日本の本は、ちょっと前までは別の形をしていました。近世（江戸時代）まで、本は和綴じで製本され、中の文字はくずし字で書かれていました。「和本」といいます。右側を糸で綴じてあって、多くはタイトルを書いた縦長の長方形の紙（題簽）が表紙に貼ってあります。時代劇などで目にする、あの形です。ちなみに、ページをめくる時は、向かって左ページの左下をつまんでめくるというルールがあります。ですから、和本を見ると、たいてい左下の角だけが黒ずんでいたり、傷んでいたりします。

日本文学の出発点を奈良時代とすると、その歴史はおよそ1300年。洋綴じの活字本が主流

になった時代は、（細かい話を抜きにしてざっと言うと）ごく最近のたった150年ほどに過ぎません。日本文学は、そのほとんどの時代を、和本という形態をとって展開してきたのです。

和本には、写本と板本（版本）とがあります。どちらもくずし字で書かれていますが、写本は手で書いたもの、板本は印刷されたものという違いがあります。中世までは写本が中心でしたが、近世になって木版による出版が盛んになり、板本が主流になりました。



『清風瑣言』上田秋成による煎茶道の本。半紙本。
下戸だった秋成は、かわりに煎茶に傾倒していたと言われる。

さて、研究の世界では、近世文学の捉え方は、ここ30年ほどで大きく変わりました。従来の、元禄文化と化政文化という二つの時期を文学・文化のピークと捉えるという考え方は、今ではほとんど見ることがなくなりました。かわって、17世紀・18世紀・19世紀、すなわち前期・中期・後期の三期で分け、18世紀を文芸の頂点とする見方が、もはや当たり前になっています。

また、近世は出版文化の時代といわれますが、板本だけではなく写本の文芸もたくさん創り出され、近世の文化の重要な部分を支えていることも明らかになっています。そのことは、和歌研究の発展と結びついています。以前はあまり注目されていませんでしたが、近世においても和歌やそれに付随する文芸もきわめて盛んに行われていたことがわかってきて、そうした雅びな分野の研究がめざましく進みました。こうした雅文芸が本の形にまとめられる時、多くの場合は写本です。いろいろな理由が考えられますが、伝統的な手書きというスタイルが重要視されたことは、そのひとつでしょう。手書きの一点ものですから、広くは流通しません。けれども、膨大な量の資料が全国各地から続々と発見され、様々な身分、立場の人たちが和歌文化に携わっていたことがわかります。

一方、一般的に近世文学としてよく知られている西鶴、馬琴、十返舎一九らが著した小説類は板本で、広い範囲、多くの読者に流通しました。つまり、主に雅文芸は写本文化、俗文芸は板本文化といえます。



中野三敏著『書誌学談義 江戸の板本』・『江戸の出版』江戸時代の本についてもっと詳しく知りたい方におすすめ。

こういって、板本文化と写本文化はまったく別の性質のもの、場合によっては対立するもののように思われるかもしれませんが、そうではないのがまたおもしろいところです。板本と写本との文化は、接点を持たないどころか、むしろ交錯しながら展開しています。

たとえば、近世の代表的な文人上田秋成の文業などに、よく表れています。秋成の代表作『雨月物語』は板本で出版され、広く読まれました。出版が予定されている以上、作者としても、不特定多数の読者を想定して書かなければなりません。一方、秋成が書いた物語には、晩年の『春雨物語』もあります。タイトルもよく似ていますし、歴史小説のスタイルを基本としているという点からも、両者はよく並び称されるのですが、この二つの物語は根本的なところで性質を異にしています。そのことは、『春雨物語』に



『雨月物語』と『春雨物語』

板本はなく、写本でしか残っていないという点からうかがうことができます。つまり、『春雨物語』は身近な、顔の見える読者に向けて書かれたものと考えられるのです。現代では秋成は小説家として有名ですが、近世における彼の立場は、歌人であり学者でした。歌人や俳諧師の自筆の短冊などに価値があるように、歌人上田秋成の自筆の物語は特定の人に贈られた可能性があるのです。『春雨物語』の写本は数種類が確認されていて、それぞれ本文に異同があります。これも、贈り主によって、本文をかえているのではと考えることができます。こういった成立背景の違いからこの二つの作品を単純に同列に読み解くことはできません。もちろん内容や文体を見ると、『雨月物語』にも雅文芸の要素はあります

し、『春雨物語』にも俗文芸の要素が盛り込まれていて、その混沌とした様態が『雨月物語』・『春雨物語』の魅力にもなっています。作品の依って立つ所は違っていても、ひとりの作者の中で当然結び付いている部分もあるのです。

このように、ひとりの作者が写本文化、板本文化どちらにも携わり、両方の知識をフル動員しながら、場合によって作品の内容を描き分けます。どちらか一方ということではなく、雅・俗あいまって近世の文化は形作られているのです。

さらに、近世の和本は、ジャンルや時代によって大きさも違います。和歌などの雅文芸は、主に大本と呼ばれる、今のB5判くらいの大きさで仕立てられます。紙も上質なものが用いられ、表紙の色や模様、中の文字の美しさなどとあいまって、何ともいえない上品な趣をたたえています。それに対して、一般向けの俗文芸は、近世前期は大本で作られますが、時代が下るにつれてだんだんと小さくなります。たとえば、近世前期、西鶴が確立した浮世草子と呼ばれるジャンルの本は大本です。大本の時代は、文字や挿絵も大きく荒削りですが、それはそれで素朴な良さがあります。近世中期、先ほどあげた『雨月物語』など半紙本（今のA5判くらい）、山東京伝らが携わった中本（今のB6判くらい）で刷られるジャンルが登場します。一九や為永春水といったあたりが活躍する近世後期になると、基本的には本は中本で作られます。中本は、大本のちょうど半分の大きさです。近世後期は本格的な商業出版の時代で、紙が貴重な当時のこと、できるだけコスト・ダウンしようという版元（本屋）のねらいがあるのでしょう。この時代になると、彫りや刷りの技術が向上したこともあって、字や挿絵はそうとう細かくなっています。また、売れっ子の浮世絵師たちが挿絵を描いて目を引きます。挿絵も本の売れ行きを大きく

左右しました。あの馬琴と北斎とのコラボ作品もあります。恋川春町や京伝、一九などは絵も得意で、自分で挿絵を描いたりしています。

こういう具合ですから、ちょっと慣れると、書型を見ただけで、中みを見なくてもおおよその時代やジャンルがわかるようになります。



『廓の癖』洒落本と呼ばれる遊郭を舞台とする恋愛小説。中本。挿絵は、浮世絵師の歌川国政。

今手に取っている古典作品が本来どういった形態をしていたのかという点は、意外に重要です。形が内容を決める場合が多いからです。古典を読む時、ほとんどの人は、洋綴じ・活字のテキストしか見ないのかもしれませんが、けれども、本来の形を知ることで、活字テキストを読むだけではわからないサインをたくさん受け取ることができます。

ところが、現代の日本人の多くは、ここ150年の間に、くずし字が読めなくなっていました。近世文学に関しても、おびただしい数の写本・板本、その他の資料が発見されているのに、まず読むことが難しいというのが現状です。

この状況を打開しようと、くずし字を解読する能力の育成や、AIを利用した解読システムの開発が、近年盛んに行われています。こうした成果が実を結ぶと、学生や一般の人たちでも、どんどん和本の世界に触れることができるようになります。そんな時代は、実はもうすぐそこまで来ているのかもしれませんが。



『書誌学談義 江戸の板本』 請求記号：022 / N39 (本館所蔵)

『江戸の出版』 請求記号：023 / N39 (本館所蔵)

『春雨物語』 請求記号：913.56 / U32 (本館所蔵)

『日本史リブレット』のご紹介

文化総合学科 松本 あづさ

藤女子大学には二つの図書館（北16条・花川）がありますが、蔵書は基本的には重なっていません。しかし、多くの利用が見込まれる図書については、両方の図書館に配架されています。

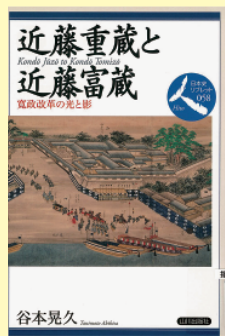
そうした図書の一つに、山川出版社から刊行されている『日本史リブレット』シリーズがあります。このシリーズの良いところは、専門的で難解な研究書の内容をわかりやすく伝えてくれるところです。そのコンパクトさは、新書にも勝っています。

今回、ご紹介するにあたって、ふだん私がどのような時に手に取っているか考えてみました。本をあげながら見てみたいと思います。

① 専門分野について勉強するため

このシリーズは入門書なのですが、最新の知見も含まれるため、専門分野の勉強にも欠かせないです。

私にとっては、麓慎一『近代日本とアイヌ社会』（2002年）、浪川健治『アイヌ民族の軌跡』（2004年）、谷本晃久『近藤重蔵と近藤富蔵』（2014年）になります。



② 専門外のことについて勉強するため

まさに平易な入門書として本書を活用する機会です。実は、授業時にいただく質問に対して答えるためにも活用しています。一番活用してきたのは、柳谷慶子『江戸時代の老いと看取り』（2011年）です。現代の高齢化問題をうけて、皆さんの質問も鋭いです。回答に困ると本書を開くのですが、



「介護の歴史」を開拓してきた柳谷さんは、広い視点でカバーしてくれます。現代を射程にいった歴史の描き方に感動します。

③ 図書館や書店でタイトルを見て

このシリーズは図書館はもちろん、大型書店の歴史コーナーにも置かれています。そこで、タイトルを眺めていると、「こういう研究が進んでいるんだ」と気になる一冊が出てくることがあります。最近では、清水勲『日本近代漫画の誕生』（2001年）や差波亜紀子『平塚らいてう』（2019年）です。図版もふだんに使われるシリーズのため、気楽に楽しめます。



全200冊ほどあるシリーズの一部ではありますが、専門的ながら分かりやすいという特長が伝わると嬉しいです。なお、山川出版社からは『世界史リブレット』シリーズも出ています。どちらも二つの図書館にあるので、たくさんの方に手にとっていただきたいです。きっと想像よりずっと広い歴史研究のテーマに触れられると思います。

『日本史リブレット』

請求記号：210.08/N71/1～
(両館所蔵)

『日本史リブレット人』

請求記号：210.08/N71:1/1～
(両館所蔵)

『世界史リブレット』

請求記号：209/Se22/1～
(両館所蔵)

『世界史リブレット人』

請求記号：209/Se22:1/1～
(両館所蔵)



高校生・中学生の職場体験

昨年度も図書館では中学校2校、高校3校の職場体験を実施しました。利用者としては気づかない・見えない仕事を体験し、「司書」や「図書館」をより身近に感じる機会になってもらえればと考えています。体験後、みなさんに感想を書いてもらいました。一部抜粋で体験の流れと一緒にご紹介します。（*実習の詳しい内容は、2020年1月発行の「広報 藤」No.69に掲載しています。）

本館 9月11日 札幌平岸高校 2名（Sさん、Wさん）、札幌藻岩高校 2名（Tさん、Tさん）
9月13日 幌延町立幌延中学校 1名（Hさん） 10月16日 札幌手稲高校 3名（Tさん、Mさん、Yさん）
花川館 10月29日 石狩市立樽川中学校 2名（Kさん、Fさん）

体験の流れ

図書館概要・業務説明後、施設見学

大学と図書館について概要説明後、学内と図書館の見学へ。

花川館では、LiStが各学科の内容を簡単に説明しながら、校舎を案内しています。



カウンターでの貸出・返却

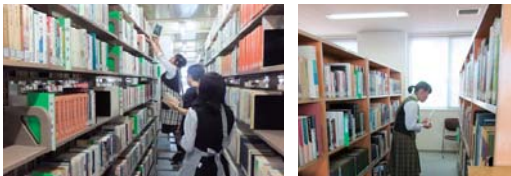
図書館といえば！という仕事。本とパソコン画面を確認しながら貸出・返却の手続きをします。



返却本の配架・書架整音

配架は、利用者から返却された本を棚に戻す作業です。本の住所である「請求記号」を見て、間違えないように戻します。

書架整音では、棚にある本が正しい場所にあるか確認します。



感想

- ・本館地下書庫の自動で動く本棚に驚きました。
- ・配架や書架整音は慎重に作業する必要があり、本を並べる場所を見つけるのが難しかったです。

感想

- ・貸出・返却や配架など、楽しみながら学ぶことができました。
- ・カウンター業務でのコミュニケーションの必要性を感じました。
- ・利用者への対応、個人情報を守ることなど大変だと思いました。

本の修理

カバーが破れている本の修理体験です。セロハンテープを使うと紙を傷めてしまうので、のりや専用のテープを使って修理します。

図書館では本そのものを修理することもあります。



データベース実習

データベースを使って論文や新聞記事を探す実習です。探したい資料によって使うデータベースが異なるため、様々なデータベースを使って本や論文を探しています。



感想

- ・細かな作業が好きなので本のカバー補修が楽しかったです。
- ・本の補修作業は最初はなれませんでした。最終的には自分の文庫本にうまく貼ることができました。

LiSt 活動報告 第6回

【1度も借りられたことのない本?!】

これを書いている時には2020年も1ヶ月を過ぎようとしています。時の流れはあっという間ですね。さて、昨年度も私たちLiStは新入生オリエンテーションから始まり、様々な活動を行ってきました。

大学祭では「1度も借りられたことのない本たち」というテーマで展示をしました。難しそうなお本や意外にも小説まで、たくさんある中から「ぜひこの本を知ってほしい!」と感じた本をLiStそれぞれが選びました。想いを込めたポップと共にいざ展示してみるとすぐに貸し出された本も! 素敵なお本と皆さんの巡り合わせのお手伝いのできたようで、とても嬉しかったです。

また、職場体験に来た中学生へ学内を案内しました。上手く話せるかな、とドキドキしながらの案内になりましたが、徐々に緊張がほぐれていき、各学科の特徴に触れながら楽しく学内を案内することができたと思います。

今年度も色々な活動や展示を通して図書館や本の魅力を伝えつつ、より楽しく快適に利用して頂けるよう頑張ります。
(花川LiSt 青田)

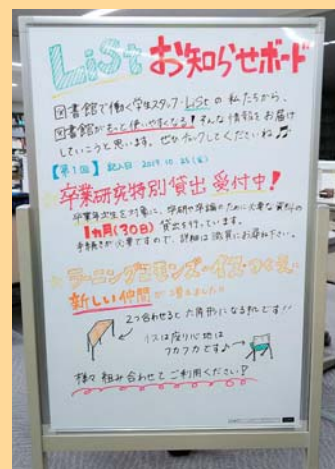


図書館スチューデント・ジョブ-「LiSt」これまでの活動-

2017年4月からスチューデント・ジョブ「LiSt」の活動がスタートしました。今年度で4年目となります。

スチューデント・ジョブは、ミーティングを行い図書館の問題点や改善方法について検討したり、図書館での企画・運営に携わっています。現在は配架や書架整斉、貸出・返却等の日常業務に加えて、新入生オリエンテーションや選書ツアーなどの活動も行っています。これまでに行ったLiStの活動を簡単にご紹介します。

- ・愛称「LiSt」の命名 (Library studentの略)
- ・エプロンのデザイン
- ・雨の日用ビニール袋のデザイン
- ・新入生オリエンテーション
- ・大学祭 (展示・イベント)
- ・特別展示、クリスマス展示
- ・オープンキャンパス時の館内案内
- ・選書ツアー補助
- ・ホワイトボードでの図書館の使い方紹介 など



本が見つからない! どうやって本を探したらいいのか分からない! など困っていることがある場合は、スタッフだけではなくLiStにも声をかけてください。

そして「LiStに興味がある」「一緒に働いてみたい」と思ったら、12月~1月頃に次年度のLiStを募集していますので、ぜひ応募してみてください。

図書館からのお知らせ

利用者用 PC が変わりました

Windows7のサポート終了に伴い、利用者用PCが変わりました。

本館・花川館とも、貸出用ノートPCが増えました。館内ではWi-Fiを利用し、印刷も可能です。ノートPC（本館のサーフェスを除く）は、充電されていませんので必ずコンセントにさしてご利用ください。

* 花川館では、2階の柱周りにコンセントを増設しました。2階をお使いの場合はこちらもご利用ください。



花川館からのお知らせ

●おすすめ本コーナーを設置しました！

2階階段付近に「おすすめ本コーナー」を新たに設置しました。気づいてもらえているでしょうか？図書館内にある資料を定期的に入れ替えて紹介しています。すぐに貸出可能ですので、興味をもったらぜひ借りてください。



●展示募集中

図書館の入口にある展示ケースとカウンター前のスペースで展示を行っています。紹介したい資料がある！読んでほしい資料がある！そんな時は、展示をしてみませんか？個人、ゼミ、講義など人数もテーマも自由です。時期などはご相談ください。気になった方は図書館カウンターへいらしてください。



藤女子中学校の2年生が図書館見学に来館しました

北16条キャンパスでは藤女子中学生の大学図書館見学会が行われました。

2月に4回行われた見学会には、全部で2年生109名が参加しました。

まず初めに、ラーニング・コモンズで図書館スタッフから図書館についての概要説明を受けたあと、説明を聞きながら館内を一周し、残りの時間は自由に見学してもらいました。

みなさん、初めて見る電動書架に驚いたり、書庫の本の数に圧倒されたりしていました。

「高校生になったら「オープン・ライブラリー」で利用したい！」という声も聞かれ、大学図書館に興味を持ってもらうよい機会になったようです。



「育メン」現象の社会学

人間生活学科 木脇 奈智子

教養科目に「ジェンダー論」を開講し、2019年度は6学科で260人を超える受講生があり、本学学生のジェンダーへの関心の高さが改めて示された。とくに女子大において、時代が要請するジェンダーのあり様や課題を学ぶ姿勢は重要である。

『「育メン」現象の社会学』（ミネルヴァ書房、2013）を著した石井クンツ昌子さんは、現在お茶の水女子大学大学院教授である。ワシントン州立大学社会学部で博士号を取得後はカリフォルニア大学リバーサイド校で准教授をされた。彼女が1990年代に持ち帰った「ポジティブ家族社会学」の視点は、その後の日本の家族社会学会に大きな影響を与えた。

父親の子育てについて描かれたこの本は、「どのような環境や意識があれば父親は育児・子育てに関われるのか」を問うている。欧米の父親と比べて、日本の父親の子育て参加頻度は確かに少ないが、「日本ではこれだけ少ない」という見方よりも「日本と諸外国に共通している育メン現象は何か」という視点からの視角が必要であると筆者は述べている。比較文化研究において重要な視点である。



第1章「育メンの歴史的背景」では、江戸時代から今日に至る日本の父親の子育てに関する研究について、第2章「育メンの社会・文化・政治的背景」では、父親の子育てをとりまく教育や政治について書かれている。第3章

「育メン現象と社会学理論・研究手法」、第4章「どのように育メンになるのか」では、研究方法について示唆が与えられている。そして、父親の子育てが家族に与える影響を明らかにした第5章「育メンがもたらすもの」では、妻、子ども、夫婦関係、父親自身にとってのプラスの効果を示している。

第6章「育メンの多様性」には、育メンのダイバーシティが描かれており、圧巻である。例えば、「専業主父」「未婚・事実婚の父親」「離婚した父親・シングルファザー」「ステップファザー」「ゲイの父親」などの現状と課題が挙げられている。異性との法律婚による標準家族が未だに「正しい家族」だとみなされている日本においても、現実の生き方はすでに多様化している。本書は少し先の地点から父親の多様性を見せてくれる。

翻ってジェンダーギャップ指数121位の日本における父親の子育ては、男性育児休業取得者が5%に過ぎないこと、厚労省によるイクメンキャンペーンの失敗など、ネガティブな点に目が行きがちである。しかし、ポジティブな面ではイクボス（育メンを応援する上司）の増加、育メン自身の連帯や共同研究・出版など、新しい父親たちのムーブメントが生まれている。今後の男性たちの動向に期待したい。



* 工藤保則・西川知亨・山田 容
『<オトコの育児>の社会学』
ミネルヴァ書房、2016

『「育メン」現象の社会学』請求記号：367.3/175（両館所蔵）
『<オトコの育児>の社会学』請求記号：367.3/086（本館所蔵）

● 編集後記 ●

巻頭言は「江戸時代の本の話」と題し、山本先生からご寄稿いただきました。本の形態について、洋綴じ製本と和本についてご紹介いただきました。図書館には和本も所蔵しています。手に取って見ることもできますし、借りることもできます。実際に手に触れてみてください。

中記事は『『日本史リブレット』のご紹介』と題し松本先生から、図書館資料Naviは「『育メン』現象の社会学」と題し木脇先生からご寄稿いただきました。松本先生、木脇先生にご紹介いただいた資料は、文学部・人間生活学部両学部の学生さんに関係のある資料です。両館に所蔵がありますのでぜひ読んでみてください。

図書館キャラクター「きしんさん」は、2020年に誕生10周年を迎えます。きしんさんは当時の学生さんが「好奇心のつぼみが花開く」イメージで考えてくれたキャラクターです。図書館を利用し、好奇心の花をたくさん咲かせてください。（W）



図書館キャラクター
「きしんさん」

スマートフォンでは
アプリを利用でき
ます

藤女子大学 図書館だより 第99号 2020.3

発行者 藤女子大学図書館 札幌市北区北16条西2丁目

TEL 011-736-5407 FAX 011-709-4770
http://www.fujijoshi.ac.jp/library/